

平成 21 年度学校体育振興事業  
 中学校武道等必修化に向けた地域連携指導実践校  
 研究報告書

学校名	みふねちやうりつみふねちやうがっこう 御船町立御船中学校
-----	---------------------------------

校長名：高野 隆  
 所在地：熊本県上益城郡御船町大字辺田見 5 5  
 電話番号： 096-282-0002

地域指導者と連携したダンス授業の創造

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

体力・運動能力調査においては、男子は、全国平均の値を残しているが、女子については学年が上がるにつれて体力低下の傾向にある。部活動の加入率は 75%と年々下降傾向にあるが、部活動加入者は日々の練習に積極的に活動している。

2 学校の概要

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
学級数	5	5	5	2	17	
生徒 数	男	91	78	99	3	271
	女	81	97	72	3	253

教員数 3 4 名 (保健体育科 3 名)

武道・ダンスの授業の状況

領域：ダンス

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
配当時間	6	6	6	各学年 と同様	35	
担当教員数 (外部指導者)	1	1	1		3	
生徒 数	男	78	10	75	0	163
	女	97	75	93	0	265

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

本研究を通して得られた大きな成果は 2 点ある。ダンスの授業に取り組む生徒の意識の変容、郡内の保健体育教員のダンスの授業に取り組む意識の変容である。取り組みとして、地域指導者と連携しながら授業を進め、毎時間授業に対する満足度調査を生徒に行っていくこと、授業研究会を実施し、郡内の保健体育教員と意見交換会を行った。

生徒の意識の変容は、踊ることに抵抗のあった生徒の意識からダンスの授業を楽しみに積極的に取り組むようになったことにある。郡内の保健体育教員の意識変容は、苦手意識のあったダンスの指導から自分自身が技能を向上していきたいという積極的な思いに変わったことにある。地域指導者との連携の授業は、効果的で可能なら自校でも実践したいという意見が多くあった。

1 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 具体的な研究課題

《保健体育教員の実態》

ダンスの専門的な知識や技能を十分に備えた保健体育科教員が配置されていない現状がある。アンケート結果(郡内保健体育教員 15 名、H21・11 月)によると、保健体育担当者全員が苦手と回答している。理由として、「知識や経験がない」「照れや恥ずかしさがある」「学習の進め方が分からない」とあった。平成 24 年度から新しい学習指導要領の完全実施に向け、保健体育担当教員のダンス指導力向上に取り組んでいかなければならない。ダンスに関する知識や技能に優れた地域の指導者を効果的に活用することで、ダンスの指導力が十分でない保健体育担当教員の指導力を向上させるとともに、学習の充実を図っていきたい。

《生徒の実態》

御船中学校 1 年生女子(81 名、H21・11 月)アンケートでは、生徒たちの興味ある単元は球技が圧倒的に多く、ダンスを選んだ生徒は 20%程度だった。ダンスを見ることに関しての興味は高いが、自分が踊るとなると苦手意識を持つ傾向にある。理由として、「みんなに見られるのが恥ずかしい」「覚えるのが嫌だ」「うまく踊れない」という意見があった。しかし、踊ってみたいという願望は強くあり、特に、現代的なリズムのダンスのヒップホップでは、80%以上の生徒が挑戦したいと考えている。「テレビにでてくるような踊りがしたい」「みんな楽しく踊りたい」「カッコいいダンスをしたい」という願いがあった。生徒たちの恥ずかしいという思いを表現して楽しみたいという思いに変えていく学習指導の工夫に取り組んでいきたい。

(2) 取組

【仮説 1】 新学習指導要領に基づいた学習内容の研究を行っていくことで、保健体育教員のダンス授業への知識も高まり、生徒が楽しんで活動できる学習計画がたてられるであろう。

【仮説 2】 地域の指導者と連携していくことで、保健体育教員の実技指導が向上するとともに、生徒もあこがれを持って活動に取り組めるであろう。

①仮説 1 について

ア 授業導入の工夫

授業導入の時間をハートオンタイムとし、心や体をダンスの授業に意欲的に取り組む準備時間とした。BGMを活用し気持ちを高め、友達と気軽に触れあいかかわり合いながら声をだしたり、音楽のリズムに乗って思い切り

踊ったりする活動を取り入れていった。また、ダンスウォーミングアップとして、後の活動につながるダンスステップを取り上げ、見てすぐまねできるようなやさしい動きを連続して行った。

#### イ 交流会の工夫

現代的なリズムのダンスは、「見せる・見る」よりは「一緒に踊る」方が特性が生きる参加型のダンスである。創作ダンスの学習における見せ合いや発表会に代わる活動として「交流会」が学習を進めるうえでの重要な意味を持ってくる。そこで、今回は、お互いの踊りを教え合う交流会を学習後半で取り入れたい。そして、最終日は、「ダンスパーティー」とし、それぞれの踊りを発表する時間を設定した。

#### ウ 指導と評価の一体化に向けた工夫

学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら、児童生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されている。評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要となってくる。今回の学習では、毎時間の生徒の感想や評価を参考にしながら次時の学習を検討していった。学習カードを活用することにより、生徒が目標に向けてどのように変容しているかを明らかにでき、どのような点でつまずき、それを改善するためにどのように支援していけばよいかを明らかにしていた。

#### ②仮説2について

##### ア 地域指導者との連携

まず、地域指導者との連携について整理してみた。今回は、授業協力者としての外部指導者と、授業を相互的に指導する立場としての外部指導者の協力を得ることができ、メリットと連携のポイントについて整理し連携を行いたい。

授業協力者としての外部指導者のメリットは教材研究の深まりにある。スポーツの専門家にTTとして授業に関わってもらうことで、より専門的な指導が学べる。連携のポイントとして、教師の願いと児童の実態を伝えること、事前に授業のプランを用意することを心がけた。授業を総合的に指導する立場としての外部指導者のメリットは、たくさんのアドバイスを頂けるということである。授業作りの向上につながり、研究会を行うことでたくさんの意見を頂ける。連携のポイントとして、授業の視点を示した資料を用意し、授業後に

評価して頂いた。

#### イ 生徒たちの興味ある内容での授業展開

「現代的なリズムのダンス」は、現行学習指導要領（1998年）で新しく位置づけられた内容であり、特性は、ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの音楽に乗って、リズムのとり方や動きを工夫して友達と自由に関わって踊る楽しさにある。好きなリズムや曲を選んでオリジナルダンスを工夫するといった学習の発展が考えられ、生徒たちは意欲的に取り組むことができる。生徒たちの高い関心があったヒップホップのリズムに挑戦することで、「踊ってみたい」、「学びたい」、という気持ちを高めていきたい。

#### ウ 主体的学習展開に向けた学習形態

ダンスの授業では、力で生徒の身体を制して動かせたとしても、こころを動かすことは難しい。一斉に命じて同じことをさせる指導より、個に応じた指導と生徒相互の交流ある学ぶ場の全体をコントロールしていきたい。オリジナルダンス創作では、グループでの活動を主とし自分たちでの教え合い学び合いを活発にさせていきたい。

#### (3) 成果・課題

##### ① 仮説1について

##### ア 授業導入の工夫

ダンス学習では、心をほぐして学習に入ることが一番の課題であり、恥ずかしさをなくし思いきって表現に入り込めるよう工夫した。仲間と関わり大きな声をだした活動は、学習の雰囲気高め、「みんなでやるぞー」という気持ちになった。また、音楽を流しながら簡単なステップを繰り返し模倣していくことで、ダンスづくりの活動にもつながり、ダンス創作をスムーズに進めることにつながった。最初の段階では、スムーズに2人組で手をつなげなかったり、声をだせなかったり、活動にため息もでることがあったが、回数を重ねていくことで克服していった。特に、コミュニケーション作りが苦手な生徒たちにとって仲間との関わりは日頃から積極的に取り組んでいきたいと思う。

#### イ 交流会の工夫

お互いのダンスを教えあうために生徒が方法を考え相談しながら活動を進めることができた。まず、全体でダンスを見せ合うこと、ペアを組み個人に丁寧に教えること、最後に全体で一緒に踊ること。分かりやすく説明するために自分の体で示しながら、声かけの言葉を工夫し教えあうことができた。「教えてくれてうれしかった。ありがとう」といった友

達に感謝の気持ちを持つこともできた。思ったより時間がかかり、全部の班と交流することはできなかったが、新学習指導要領でも示してある言語活動を取り入れた教え合いはこれからの保健体育学習の授業にもつながる取り組みとなった。

#### ウ 指導と評価の一体化に向けた工夫

学習カードで評価することで、生徒が、自らの学習状況に気づき、自分を見つめ直すきっかけとなった。その後の学習に向けて目標を持って取り組めるきっかけとなった。カードに学習上の悩みを書いてきた時は、改善点のポイントを示し、学習場所で直接指導を行うことができた。また、楽しみ度%を設定し記入させていくことで、教師側もその日の学習指導を振りかえることができ、指導の改善に生かすことによって、指導の質を高めていくことにつながった。評価については、まだ勉強不足で3年間を見通した評価計画を学習指導案にも掲載していく必要があった。

### ② 仮説2について

#### ア 地域指導者との連携

地域指導者を探すことはかなり困難であった。仕事の合間に来て頂かなければならず、申し訳ない気持ちで依頼を行った。趣旨や教師の思いを伝えることを第一に説明を行い検討して頂いた。ヒップホップの世界が学習指導要領に例示されていることに喜びを持たれており、ヒップホップダンサーの熱い思いも聞くことができた。生徒たちは、地域指導者に会うのを楽しみにしており、意欲を持って学習することができた。地域指導者の明るさやパワーが授業を活気づかせている勢いを感じた。学体研のダンス研究発表やダンス連盟の主催する勉強会にも参加することができ、ダンスの研究をされている方々との出会いから、表現することの楽しさや豊かさを感じることができた。ダンスパーティーの日には、地域指導者2名の踊りを披露して頂き、感動の中で授業を終えることができた。

#### イ 生徒たちの興味ある内容での授業展開

ダンスの授業を楽しみにしている様子や学習カードや会話から把握できた。学年全体での取り組みで、授業後は、他のクラスから授業内容を聞きあう姿もあった。生徒たちの興味を活気づける音楽も自然と踊りたくなるものばかりだった。今回の音楽は、地域指導者からお勧めの曲を頂き、生徒たちが創作しやすいよう1～3分程度の長さの曲にアレンジしてあり効果的に活用できた。

#### ウ 主体的学習展開に向けた学習形態

生徒たちは、グループでの活動を一番楽しみにしていた。グループにまかせる時間が多かったクラスの方がより活発に意欲的にダンスづくりに取り組んでいた。また、学級内のコミュニケーションも深まり保健体育の授業を通して仲間作りも行っていた。活動初期の頃は、活動が進まず動きが止まってしまうこともあったが、「相談もリズムをとりながら、座らない、曲選びよりカウントを数えながら」というアドバイスをを行い、活動を促していった。

## 2 研究成果の普及

授業研究会に参加した郡内保健体育教員(10名)の意見、授業前後の生徒の意識の変容を分析し今回の取り組みの評価を行った。

郡内保健体育教員に行った研究会前の記述式アンケートでは、全員が苦手と感じているダンスの指導への消極的な意見が多くあったが、研究会後は授業に前向きに取り組んでいく意見が多くだされた。

#### (研究会前の意識)

- ・自分自身の恥ずかしさがあり指導は苦手。
- ・生徒たちの意欲が低い時があり学習に取り組みにくい。
- ・学習をどのように進めていったらよいか分からない。

#### (研究会後の意識)

- ・研修会に参加し意識改革をし、技能を向上させていきたい。
- ・生徒たちの実態や要望を考慮し、生徒達と一緒に取り組んでいきたい。
- ・授業の学習過程表を参考にして授業を進めていきたい。

地域指導者と連携した授業に対しての意見では「効果的で、自校でも取り組みたい」という意見が多くあった。ただ、課題として人材発掘、人材の情報不足、打ち合わせや学校との連携の困難さがあげられ、本校でも悩んだ状況はそのまま課題として残った。

次に、1年生女子81名の意識の変化(表1)を分析した。毎回、授業の満足度を楽しみ度%で示させた。保健体育教員のみが行う授業日と地域指導者と連携した授業日を比較すると、基本の動きを行った日は67%から78%に、創作活動を行った日は85%から93%に上がり、地域指導者と連携した日の授業の方が高い満足度数値になった。また、基本の動きと創作活動の授業日では、保健体育教員が授業を行った日は67%から85%に、地域指導者と連携した授業日は78%から93%に上がり、創作活動を行う日の授業の方が高い満足度数値とな

った。さらに、単元開始前と単元終了後の授業満足度は、68%から97%に上昇し、単元を通しての成果を感じる。同様に、生徒の意識調査（表2）でも、ダンスを見ることも踊ることも好きになった生徒数が向上した。

（表1：授業の満足度）	楽しみ度
授業1時間目：オリエンテーション（授業全体前）	68%
授業2時間目：地域指導者連携日（基本の動き指導）	78%
授業3時間目：保健体育教員のみ授業日（基本の動き復習）	67%
授業7時間目：保健体育教員のみ授業（創作活動）	85%
授業8時間目：地域指導者連携日（創作活動アドバイス指導・ミニ発表会）	93%
授業9時間目：交流会（ペア班でダンスを教えあう）	90%
授業10時間目：授業全体実施後（ヒップホップ全体）	97%

（表2：意識調査）	授業前	授業後
ダンスを観ることが好き	76%	95%
ダンスを踊ることが好き	50%	92%

地域指導者との授業に対し生徒たちは大変喜びを持っており、最後の日は先生の踊る姿を見て、もっと踊りたくなったという感想が多くあった。

～生徒授業後の感想より～

- ・最初はちゃんとできるか心配だったけどダンスの先生が楽しく教えてくれてうれしかった。
- ・一番楽しい授業で、また、やりたいなあと思いました。
- ・ダンスの先生はかっこよくてあんな風に踊りたいなあと思いました。
- ・体育はこんなに楽しいんだなあと思ったり、ダンスはこんなに楽しんだなあと思いました。
- ・いつもはあまりしゃべらない友達ともにこにこして話して仲良くなりました。

今後も生徒たちの意欲に答えるような授業の実践を目指していきたい。

### 3 今後の展望

今回の取り組みを通し、郡内保健体育教員や生徒たちの意識の変容が見られた。地域指導者との連携は人材探しからの困難さはある

が、専門的な技能や思いを熱く持つ人との出会いで授業に取り組む姿勢も変わっていくと考える。私自身、全く取り組んだことがなかったヒップホップダンスの挑戦だったが、生徒たちの笑顔を見ながら楽しんで授業づくりに取り組んでいくことができた。他単元の授業でも生かされる取り組みだった。地域指導者からは、「今後も是非継続して取り組んでほしい」という願いが伝えられた。今後もさらにレベルアップさせながら取り組んでいきたいと思う。